

学科	生活創造学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	2	後期	必修	はい	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本講義は、本学の建学の精神である「感恩奉仕」の精神習得の出口の部分を担当しているため、キリスト教学Ⅰの聖書の学びから発展させ、幅の広い教養を身につけるため、多岐に渡る内容のキリスト教芸術と文学に触れ、視野を広げる授業展開を行った。また、授業以外のチャペルの参加や、教会訪問なども評価に取り入れ、授業外でキリスト教に触れる体験の機会を設けた。 ②昨年度からの改善としては、毎回の授業中、ポートフォリオでの学びの確認だけでなく、Bible Note作成を導入し、出席率でしか評価できなかったチャペルでの体験的な学びが、毎回のチャペルのコメントをノートに張りつけ、見直すことができるようになった。また、このBible Noteには、授業外で聖書を読んだ時のコメントなども記入できるようにし、予習・復習に取り組みやすい工夫をした。 ③新しい試みとして、2年間のキリスト教の学びから興味をもったことをグループで調査し発表する機会を設けた。これについては、学生の関心にあわせて展開し、各クラス12種類のテーマについてお互いに学ぶ事ができた。 ③もう一つの新しい試みとして、学期の最後に「感恩奉仕と私」というタイトルでレポートを書き、2年間のキリスト教の学びの集大成をひとつの文章としてまとめる作業を行った。これによって、学生が聖書やキリスト教教育の学びから何をうけとり、卒業していくのが良く見えるようになった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては3.5ポイントであった。トータルの成績の平均値は約78%以上。チャペルの出席率約75%以上とコメントカードの内容、教会訪問の出席率約90%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。 また、「感恩奉仕と私」というテーマの学生のレポートの内容から、90%以上の学生が、聖書について、キリスト教について、人生の基盤となるべき学びができたとのことから、全体をとおして教育目標が達成されたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となる聖書の内容を学ぶ「キリスト教学Ⅰ」の学びを踏まえ、展開している。聖書の学びを前提としての発展的な学びであるが、全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察し、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表するという行動目標については、初の試みであったが、講義だけでなく、グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らが習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Bible Noteをキリスト教学Ⅰより導入したが、未だ、使用方法の指導が徹底しておらず、キリスト教学Ⅰに引き継いで使用する際、ノートの内容にかなりのばらつきがあった。2年間のキリスト教の学びの集大成として作成していきたいので、今後は授業外の予習・復習などで用いる事、チャペルのコメントカードを貼付け見直すことなどを、徹底していきたい。 本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.9であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の集大成として学ぶ科目であるが、キリスト教学Ⅰを発展的に展開していく上で、Ⅰでの学びが重要である。Ⅰの復習もⅡでの講義に加えつつ、学生が主体となって行うディスカッションや調査・発表を取り入れ、学生が主体的に授業を展開できるように促している。授業の最後に記入するポートフォリオやチャペル出席・教会訪問に加え、それらの学びをひとつのノートに記録できるようBible Noteを作成し、さらに関心あるテーマについてグループで調査・発表し、最後に「感恩奉仕」とは自分にとってどのような意味を持つか、自分自身の心を洞察していく作業をおこなったため、前年度より、内容が深まったと言えよう。引き続き、学生の興味関心を引き出し、「感恩奉仕」について日常的に考えることができるよう促すことが課題である。

学科	生活創造学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生あつての教室だと認識している。前回の講義で書いてもらった「質問の個票」の読み上げとそれに対する回答から講義を開始している。様々な質問が寄せられる。この時間は当日の課題にすぐ入る前の準備段階の時間として大切にしている。学生の評判もよい。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の結果を見ると、試験の出来栄と判定結果(C判定のなさ)から学生の目標達成は実現できたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の受講をきっかけに「心理学に興味を持った」「さらにさまざまな心理関係の本を読んでみたいと思った」などの意見が多く寄せられた。講義できる時間の制約もあるので、これらの意見は私にとってありがたかった。学生の人間観を豊かにする上で貢献できたと評価している。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

どうしても、講義前の予習を促すことが困難であることはここ、数年来の悩みである。講義の最後に、次回の講義のテーマを予告するとともに、それまでに「生活の中で気を付けて考え、観察する内容」を指示するにはどのような課題があるか今後考えたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生が主人公である教室を実現したいというのが永年の夢である。どしどし意見や質問がでてダイナミックに教室が揺れる。学生の学習意欲に火をつけたいと思う。今後ともその実現に向けて頑張りたいと思う。

学科	生活創造学科
氏名	小池 順一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	新聞などで憲法についての時事的な問題に関心を持つように事前指導した。新聞等で報道された内容については興味があるようであった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	レポートによる評価については、全員が優秀であった。しかしながら、所属学科との専門性の違いからか、学生の到達度自己評価は、平均値であった(3. 0)。事前学習を促したものの、学習量の評価は低かった。また、シラバス利用、図書館利用の量も少なかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性について、本科目は、いわゆる一般教育科目であり、その面から学生の受講動機は単位取得のためというものが多かった。そのため動機づけに苦心したが、日常的、具体的な授業のテーマ設定をすることで、ある程度学生の関心を高めることができた。②DPからみての内容的妥当性については、憲法についての知識、関心を一定程度持つことができたようであり、内容的に妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業中、学生に意見を求めるなどをした点については、学生の評価はある程度高かったようであるが、学生の質問を受け付け、これに答えたかについては、若干、評価が低かった。今後は、学生に質問をするように促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

事前学習の必要性については、常に指導しているが、まだ不十分のようである。これを徹底させたい。また、こちらから質問するだけでなく、学生から質問する時間を増やすようにしたい。

学科	生活創造学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	近代日本の女性の歩みと現代日本の女性の在り方とのつながりが理解できるように心がけた。受講動機では、「単位数を確保する」を選択する者が88%、「関心のある内容である」を選択する者が25%である。必ずしもすべての者に初めから積極的な受講姿勢を期待できない状況にあって、毎回テーマに係わって具体的な人物を取り上げて、その仕事の現代的意義がつかめるように心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は、定期試験の成績をメインに、2回のレポートの成績を加味して付けた。秀が11%、優が56%、良が22%、可が11%である。比較的良好な結果である。到達度自己評価では、中央値前後の項目が多いが、専門分野や職業選択に係わる項目では低めである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、一般教育科目の一つで、DP1、DP3に係わる位置付けがなされている。到達度自己評価に関する上記の評価に鑑み、内容的妥当性は、DP1に関して一応あるが、DP3に関しては不十分である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業は、毎回、テーマに沿って、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。講義にあったって、常に具体的人物を取り上げ、その仕事の現代的意義がつかめるように心がけた。講義を踏まえて2回のレポートを課したことは有益であったが、予習・復習については、学生任せにしたきらいがあり、課題を具体的に与える姿勢が求められた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

講義を通して、近代日本の女性史について基本的な知識を獲得させるという課題は、一応達成できた。しかし、アクティブラーニングを促す工夫ではなお改善の余地がある。

学科	生活創造学科
氏名	富田 純史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物学	1	後期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 生物学の講義は選択のため学生の受講動機や学習背景が様々である。このため本講義では、生命の起源から多様な生物への進化、生命現象のメカニズムについて、学生ひとり一人が興味をもてるようになることを大切にしている。 2. 抽象的な講義にならないように、わかりやすい配布資料に加えパワーポイント・ビデオなどの視聴覚教材を準備した。 3. 講義時間の配分に留意し、(1)前段、(2)配布資料と黒板による説明、(3)視聴覚教材による補完説明、(4)今回・前回までの講義関連事項に関する疑問やコメントへの回答と説明を行った。 4. 講義関連事項に関する疑問・コメントについては、講義直後に整理分類し、口頭だけでなくパワーポイントなども作成して次回での回答・説明に備えた。 5. 昨年度からの改善点としては、講義中に学生への質疑を加えるようにした。 6. 授業評価においては、単なる知識だけでなく本講義を通じて“いのち”の不思議さ、大切さについての理解をみた。このため、定期試験だけでなく全講義の後に実施していたコメントカードの記載内容にも重点をおいて評価した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 定期試験の結果は大部分の学生が80点以上の満足すべき結果を示した。 2. 早朝からの講義にも拘らず、欠席・遅刻がほとんどなく本講義への興味の向上を示した。このため、登録学生で失格になったものはいなかった。 3. コメントカード記載内容は、講義の進行とともに量的・質的に増加し、講義内容関連事項への質問・コメントも増加した。 4. 学生による授業評価においては、一部に予習・復習が不足している学生の存在が示された。次年度では、関連資料の収集やまとめなどのテーマを与えることを検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本講義は教養として選択、学科横断的位置づけにあるため、学生の本来の興味や教育背景が異なる。このため、“いのち”の大切さを様々な角度から考え理解させることが望ましい。全学生の出席率だけでなく各講義後のコメントカードの記載内容、定期試験結果には満足すべきものがあり内容的に妥当であったと評価する。 2. DP、行動目標からみての内容的妥当性 講義内容に興味をもつことにより専門的な知識も増加していることが各講義後のコメントカードの記載内容、定期試験結果に示されており内容的に妥当であったと評価する。 3. 以上により、本講義の内容的妥当性には問題ないとする。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 授業の進め方については、各年度での結果をもとに改善してきたことにより一定の自己評価をしている。 2. 入学年度により学生の志望動機、教育背景と将来への希望が多様化している。このため、教育内容のレベル設定にはさらに工夫を行いたい。即ち、全体として視覚的にもわかりやすい構成の中により詳細な専門的なものを加えて行きたい。 3. 予習・復習については身近な材料を取り上げて実施させるようにしたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講義は、学科横断的教養選択科目であるが、他の専門科目への学習意欲の向上と知識・理解の補完となるように設定している。講義中のコメントカード記載内容と定期試験結果から、これらの目標は概ね達成できたと総合的に評価している。しかしながら、入学年度により対象となる学生の志望動機、教育背景と将来への希望が多様化しているため、講義開始直後に各学生の講義への反応を注意深く観察することでその後の講義内容へ反映させることが重要だと考える。
------------------------------	---

5101800

リフレクションカード 2015年度後期

学科	生活創造学科				
氏名	篠木 賢一				

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
スポーツ・健康科学概論	1	前期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修科目であり、学生は全員受講している。対象学生は1年生(後期)で、大学に入学し生活環境の変化等があり、学生自身の生活習慣の見直しや健康管理の重要性を理解してもらうために、学生の興味のあるダイエットや美容に関連する内容を取り入れた。教室での講義だったが、実際に学生が運動を行い測定をしたりして理解が深まるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は89.5点(Sー18、Aー7、Bー2、Cー1)である。半数以上の学生がSまたはAを取得していることから、目標はやや達成されたと考えている。しかしながら、小テストの得点を見てみると60点を下回る学生もいたことから、説明等を丁寧に行い通年で行われているスポーツ科学実技の授業でも健康等について引き続き指導していく必要があると思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「一般教育科目」における「自然科学系」に位置づけられており、卒業必修科目である。成績評価を見てもほとんどの学生において現段階での課題はほぼ達成されており、内容的には妥当であったと考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教師からの一方的な講義にならないように、グループワークや学生が発言できるような内容で授業を行った。それにより学生が考えて発言・行動する姿が見られたが、発言する学生に偏りがみられるため、すべての学生が発言しやすい環境づくりができるように検討していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業への取り組みや評価結果を見ると、授業の目的は概ね達成されたと考えられる。この授業は教室で行うため、実際の運動や生活習慣に繋げていけるように他の科目でも指導を行う必要があると思われる。また、授業だけではなく卒業後も学生が得た知識を生かすことができるような展開を心掛けていきたい。

学科	生活創造学科
氏名	篠木 賢一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
スポーツ科学実技	1	通年	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修科目であり学生は全員受講している。対象学生は1年生(通年)であり、この授業を通して運動・スポーツの意義を理解し、自己の体力を把握することが大切である。また、授業だけではなく、卒業後も生涯スポーツとして運動を続けてもらうために、さまざまな競技と行いルールや技術習得ができるように工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は87.4点(S-17、A-7、B-1、C-3)である。半数以上の学生がSまたはAを習得していることから、目標はやや達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「一般教育科目」における「自然科学系」に位置づけられており、卒業必修科目である。成績評価を見てもほとんどの学生において現段階での課題はほぼ達成されており、内容的には妥当であったと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

体力測定を前期の4月と後期の1月に行うことにより、学生自身が体力の変化を把握できるようにした。また、さまざまな競技においてゲーム形式だけではなく、技術習得のための練習を取り入れ、学生がお互いに教え合うなどの姿が見られた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業への取り組みや評価結果を見ると、授業の目的は概ね達成されたと考えられる。バレーボールやバドミントン等の競技だけではなく、フットサルなどの競技もできるように、環境や道具を整備したい。また、安全管理のために、今ある古い道具を新しくすることを検討したい。

学科	生活創造学科
氏名	石田 もとな

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	とにかく英語を好きになり、楽しいと思うようにすることに重点をおいた。英語が好きな学生はほとんどおらず、何か語学系を取らなければならないので履修したというネガティブな受講理由が多かったためである。テキストも、英文法的には中学3年生までのものが理解できていれば理解できるレベルの、世界中の面白い話が集められたものを選定した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	英語を好きになる、楽しむという目的はおおむね達成できたものと思われる。前期より多くの学生が受講し、前期に受講した学生からは楽しかったからまた履修したというコメントがあった。アンケート「報告書」の3. 授業の質評価の項目でポイントが高かったのは【説明が理解しやすい】の4. 6、【学生が参加する機会がつくられていた】【学生の質問を受け付けそれに答える機会がつくられていた】の4. 4であった。以上の結果より、学生とはコミュニケーションが取れ理解も進んだと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	どちらかというと、知識理解(DP1)よりは、意欲関心(DP3)のほうが、当該科目の位置づけとしては近いように思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業態度については、もう少し厳しく注意するべきであったと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

結果的には、全員が期末テストで高得点を取り、単位を取得することができた。当該科目に関しては、今後も難易度は中程度、内容的には何に興味がある学生も興味もてるものにするべきであると思われる。以前保育科の英語を担当した際は、保育という明確な関心事があったため、題材も選びやすく、全員が同じものに興味を持って取り組めたが、生活創造学科においては興味関心の対象が広いため、教材の選び方には十分な工夫が必要と考えられる。

学科	生活創造学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハンゲルⅡ	1	後期	選択	はい	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	初級レベルの語学力をつけるのがこの講義の目標であり、前期の「ハンゲル1」に引き続き受講する学生がほとんどであるため授業動機が「関心がある内容のため」が多いのも頷ける。 また講義内容の節目に小テストを実施することにより学生に学習状況を認識するようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均成績は84.5点であり、全員が80点以上の好成績を取った。 また到達度自己評価の全項目にわたり平均値が学科平均より高い。また「2.知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.0であることからしても所定の成果を得られたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみた内容の妥当性 全員がシラバスを参考に受講を決め授業の質評価でも学科平均より高い回答が得られたことから、授業が当初の計画通り進み、学生たちの満足度が高かったことが分かる。 ②DP、行動目標からみた内容の妥当性 教材を用いた予習・復習には時間を割く他に小テスト対策を立てて学習したことが学習量の評価自由記述(4)「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」で分かる。シラバスに明記しているように「積極的な姿勢での授業参加」ができたことが分かる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、全項目において高い評価を得られていることから授業進行に問題がなかったと思われる。教材を用いる学習以外のも各自好きな方法で学習を進めているので問題ないと思われる。これからも学生たちが積極的に学習できる素材を紹介しようと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生からの「到達度自己評価」や「授業の質評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容と思われる。これからも韓国語と韓国の文化への理解を深められるよう工夫を重ねていきたい。

5102401

リフレクションカード 2015年度後期

学科	生活創造学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語表現法	1(2)	後期(前期)	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

まずはじめに、学生の最も苦手とする「書く」ことに焦点を当て、テクニックとしての書く行為から、考える筋道、手だてを引き出すきっかけとなる試行錯誤について、その順番を身につけさせた。「筋道を立てる」方法論を徹底的に伝授した講義内容になる様、努力した。学生同士の批評会やコンテストを繰り返しながら、楽しく学べる雰囲気を講義の中に取り入れる様に配慮した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終試験の成績評価から、全体の約70%の学生が到達目標の基準を達成した。しかしながら2015年度の学生の特徴として、学生の個性、やる気、能力等々に非常に相違がみられるため、当たり前の指導法では実力はつきかねると判断し、授業方法をマンツーマンに重きを置いた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性
育科目]であるが、就職試験、実習日誌の作成等々、すべての基礎根幹をなす科目であるゆえ、内容的には妥当であると考える。

②DP.行動目標からみての内容的妥当性
イトを燃やし努力する中で、少人数ではあるが集中に欠ける学生もいる。これは方法的妥当性の問題であると思われる。内容的には到達目標の基準を達成シテいるので、妥当であったと考える。

③まとめ
性には問題はないと思われる。

本科目は「一般教
ほとんどの学生がファ
以上から、内容的妥当

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

この講義に対する学生の意欲が以前に比べて増したか否か。それを考えるとあまり喜ばしくない結果がある。学生の成績にムラがありすぎるせい、同時並行的に皆が足並みそろえて成績アップが難しいのが現状である。そういった現状を打破するために、許される限りマンツーマン指導を行ったが、今後も添削および個人指導を強化するつもりである。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の人数の少子化が目立つ中で、教育の方法を徐々に改善しているが、最も効果的であった方法は、やはり細やかな添削指導とその後のさらなるケアであったように思う。したがって今後も丁寧な指導を続けてゆくつもりである。

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリアデザイン	1	後期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機は次の通り。①必修科目である100.0%。 ・学科における必修科目である。 ・卒業後の進路、および自分の適性を考え、社会人としての意識をもつ準備を促すための授業を行った。 ・テキストは用いず、授業用に作成したスライド、配付プリント等を使用して解説を行った。 ・授業で示された手順、解説をノート等に記録し、それを予復習に利用することで、自発的学習に対応できることを想定している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された			達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・期末の成績評価は、平均85.8点／100点であった。再試対象者は0名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.8で最も高いスコアであった。 (10)職業選択の参考になった ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.2で最も低いスコアであった。 (8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・学科DPの意欲関心(DP3)、技能表現(DP5)の基礎部分を担う科目として開講している。 ・受講動機、学習到達度の自己評価の結果から判断して、開講の意義は充足されており、内容の妥当性に問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは3.4～3.8であり、概ね意図した授業が実施できたと考える。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。 ・予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかった。コンピュータを利用した情報の作成・伝達に関する文献、資料を参照することを促すことも学習の深耕に資すると思 われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。 ・予復習、自発的学習を促す工夫をする余地があると考ええる。 ・スタンダードなテキストを指定して、予復習、自発的学習に活用させてもよいかもしれない。
-------------------------------	--

学科	生活創造学科
氏名	加来 卯子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア演習	2	前期	必修	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年次において、ハンドクラフトや地域ボランティアなど、いくつかのグループに分かれ、主に学外でボランティアを行う。ボランティアの特性に合わせ、複数の指導教員のもと、学内で準備を行う。活動内容における準備の他、社会参画する場において、他者から受け入れられるマナーについて事前に学ぶ。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「自分なりの目標を達成した」の項目で、肯定的に捉えている学生が多かった。レポートの記述から、様々な世代の方々と関わることの意義を感じ、内面的成長がうかがえた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」と答えた学生が多かったが、受講回数が進むにつれ、ボランティアへの意義を理解することにより関心が高まり、積極的に活動する者も見受けられた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、担当教員により異なるが、基本的に、学内で、前段階の準備を行い、学外でボランティア活動を実施する場合が多い。授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目で肯定的に捉えている学生が多くみられた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学内で段取りを整えたうえで、学外での活動に臨むため、多くの学生が積極的に関わろうとする姿勢が見受けられる。ボランティアの場において、学生自ら考え、実践することが、著しい成長につながっている。今後、地域社会とのより深い連携が望まれる。

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活創造論	2	後期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機は次の通り。①必修科目である77.8%、③関心のある内容である11.1%、④単位数を確保する11.1% ・学科における必修科目である。 ・探求するテーマについての情報収集を行い、自分以外から提供された情報に対して、建・設的な討論や講評ができることが要求される。 ・これに対する学修準備性として、討論的場面での報告や情報発信に対応できるだけの知識理解、技能表現が必要となる。 ・複数の学生の多様なテーマ設定を許容したために、討論や情報発信に対する反応の深まりが不足していたかもしれない。 ・共通のテーマについて異なる側面から観察し、関連する情報収集を行って、これを解釈するような展開がよいかもしれない。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	・期末の成績評価は、平均82.9点／100点であった。再試対象者は0名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.7で最も高いスコアであった。 (5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.0で最も低いスコアであった。 (1)自分なりの目標を達成した					
＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・学科のDPの知識理解 (DP1)、技能表現 (DP5)の基礎部分を担う必修科目として開講している。 ・受講動機、学習到達度の自己評価の結果から判断して、内容の妥当性に問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは3.0～3.6であり、概ね意図した授業が実施できたと考える。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかったが、初学者向けの科目であるので特段支障はない。ただし、理論が身近な場面で活用されている事例等を参照するなどを促すことも学習の深耕に資すると思われる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。 ・予復習、自発的学習を促す工夫をする余地があると考ええる。
------------------------------	--

5140702

リフレクションカード 2015年度後期

学科	生活創造学科				
氏名	加来 卯子				

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活創造論	2	後期	必修	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年後期の必修科目であるため、「生活創造演習」と並行し、課題を進められるよう配慮した。全体的な説明を行った後、学生の質問に対応するとともに、個々の状況を把握した。本講では、地元でつくられた小倉織を題材として取り上げ、縞の特徴を生かすデザインの提案をテーマとして掲げた。授業の最後には、毎時、振り返りを行い、次の準備として進めておく課題を確認した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81点であった。受講者のほとんどが理想的レベル(概ね80点以上)に達していた。知識理解、技能表現ともに、学生により若干の差がみられたものの、達成度は低くないと言える。小倉織は地元の産物であるため、繊細な縞模様を新たなデザインへ展開する過程は学生たちの興味関心を促した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門必修科目」であり、「生活創造演習」と関連する科目である。題材として設けた小倉織については、ほとんど知られていなかったが、授業を重ねていく毎に関心の高さが増し、内容的には妥当であったと考える。到達度自己評価において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」などの項目で高得点が得られた。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価では肯定的に捉えている学生が多く、知見を得ることにより関心が高まったと推察される。一方で、学習量の評価は高いといい難く、授業への準備や復習を促すよう努めていきたい。これらを参考に新カリキュラムにおける指導に反映させたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門応用科目にあたる位置づけから、知識および技能については概ね達成できたが、課題を残している面も見受けられる。学習への時間配分も含め、今後、検討していく必要があると思われる。個々に学べる体制をつくることの重要性も感じられるため、今後、授業への取り組みを工夫していきたい。

学科	生活創造学科
氏名	領木 信雄

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活創造論	2	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	事前の説明会で授業内容について丁寧に説明を行ったため、内容に興味のある学生が受講した。 関連する科目である生活創造演習での内容と連動して、社会での位置づけ・分野の歴史・他の手法との比較などについて理解できるようにした。それらを踏まえて、個人としての意見も考えさせるようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績はレポートから評価を行なった。受講生全員が、理想的なレベルに達していた。 学生による到達度自己評価においては、ほとんどの項目でほぼ全員が「まあまあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」を選んでおり、目標達成状況は概ね良いと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP・カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は専門科目の必修科目(担当教員を選択)である。カリキュラムツリーにおいて「キャリアおよび社会参画について学ぶ」科目として、内容的に妥当であると考ええる。 2. DP・行動目標からみでの内容的妥当性 コンピュータのプログラミング分野について広く扱ったので、特に「情報に関する基礎的な知識と理解を有している」「読む、書く、調べる、計算する、自分の考えや感性を表現し伝えるといった基礎学力を備えている」について、内容的に妥当であると考ええる。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

図書館にも関連図書を購入してもらっているので、利用される頻度が上がるよう、度々紹介するようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況は概ね良いと言える。

より良いレポートを作成できるよう、組み立て方についても扱うようにしたい。また、レポートの執筆に入る前に、内容について受講生同士で議論する機会を設けるようにしたい。

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活創造論	2	後期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「生活創造論」は必修科目であるが、食に興味を持つ学生が受講するため学修意欲が高いことが窺える。 ②1年生と2年生前期に食の基本を修得し、すべての知識が応用できるように進めた。 ③授業前に図書館で文献や図書などで調べ、生活創造演習の導入として計画を作成してから授業に参加させた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	①定期試験ではなく毎回のレポートを課題としている。成績としては全員標準的レベルに達したが理想レベルに(概ね90点以上として)に達しているのは9名であった。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	②学生の授業評価アンケートから、「自分なりの目標を達成した」と回答に関しては平均値4.7、中央値5.0であった。多くの学生が原理を理解し、生活創造演習に結びつける為に創意工夫を行ったと考えられる。知識理解に関しては平均値4.5～4.7、中央値5.0であった。知識を確認、修正したり新たに得ることができ、それぞれの学生の自信に繋がったと考えられる。また、意欲関心についても学びを深めたいと意欲を持つことができたと窺える。そして、技能表現(DP5)に関しては、平均値4.6～4.7、中央値5.0であった。必要な技術が身につく、それぞれのコミュニケーション力や表現力をも身につける事ですぐ実践できることを体得したと考えら、これらのことは、学生の自信に繋がったと思われる。					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「生活創造演習」と連動しており、「生活創造論」の授業で原理を理解し作成方法や計画を立てる為の基礎として重要な位置づけの「必修科目」である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の修得ができたと考える。また、これを用いて創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①「授業の質の評価」では、いずれも平均点で、4.1～4.6と大きな課題はないと思われる。特に(4)の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの学生が参加する機会が作られていた」項目では平均値4.6、中央値5.0と評価が高く、地域貢献として発表する機会は学生の自信に繋がるだけでなく、郷土愛を育む良い効果であると思われる。受講意識も高くなり学生と教員間の信頼関係が増すと思われる。また、(5)の「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」項目では平均値4.5、中央値5.0と評価が高く、作成方法や計画を変更せざるを得ない場合など学生とのコミュニケーションを図ってきた。それに加えてそれぞれの学生の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生には適切な説明してきた。 ②今後も原理などの基本を修得した上で実践ができる授業を進めていきたい。 ③学術データベースやインターネットのHP検索などは、ほとんどの学生が利用していた。また、図書館の利用についても、ほとんどの学生が利用していた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本科目は「生活創造演習」と連動しており、「生活創造論」の授業で原理を理解し作成方法や計画を立てる為の基礎として重要な位置づけの「必修科目」である。授業の達成度自己評価においても、概ね平均値4.5～4.7、中央値も5.0であり、期待した修得ができたと考える。 ②授業を通じてDPIにある、衣食住に関する基礎的な生活技術を修得し、今後のみずからの生活に創意を加えて活用することについても概ね達成できた。(地域貢献としての学外発表など) ③今後の改善点として、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。
------------------------------	--

1. 基本情報

2. 観点・DP上の位置

3. 授業準備について

4. 学生の目標達成状況について

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・DP、行動目標からみでの内容的妥当性 中3名が見事合格できたことから判断して、内容的妥当性には問題ないと思われる。、	高難度の2級検定に4名
--	---	--------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1コマ別の授業内容について、どれくらい理解できているかの評価として、次回の授業時に豆テストで確認することになっている。豆テストの結果は正直で、高得点者は受験してもいい結果がでている。この豆テストの実施、内容解説が好結果をもたらしたものと自負している。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

4人受験で3人合格という輝かしい成績ではあるが、後1人が不合格だったことに関しては不満足である。次年度は全員合格を目指したものである。

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
コンピュータデータ活用演習	1	後期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機は次の通り。①必修科目である92.6%、③関心のある内容である3.7%、④単位数を確保する3.7% ・学科における必修科目である。 ・初学者の受講を想定して、テキスト、問題集の指定をした。 ・テキストの内容を理解、定着させるためには例題等による問題演習が不可欠となる科目であるため、コンピュータ操作の手順ならびに理論を解説した後、問題の演習を行う形で進めた。 ・コンピュータ操作の手順ならび理論の解説には、テキスト、授業用に作成したスライド、プリント等を用い、問題の演習には、テキストの例題、問題集を用いた。 ・授業で示された手順、解説をノート等に記録し、それを予復習に利用することで、自発的学習に対応できることを想定している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・前期試験を経ての成績評価は、平均81.8点／100点であった。再試対象者は0名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.7で最も高いスコアであった。 (1)自分なりの目標を達成した (2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた (3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた (4)自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた (5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた (6)自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた (7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.4で最も低いスコアであった。 (8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・学科のDPの知識理解 (DP1)、技能表現 (DP5)の基礎部分を担う必修科目として開講している。 ・受講動機、学習到達度の自己評価の結果から判断して、開講の意義は充足しており、内容の妥当性に問題は無いと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは3.3～3.5であり、概ね意図した授業が実施できたと考える。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかったが、初学者向けの科目であるので特段支障はない。ただし、理論が身近な場面で活用されている事例等を参照するなどを促すことも学習の深耕に資すると思われる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。 ・予復習、自発的学習を促す工夫をする余地があると考ええる。
------------------------------	---

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活創造演習	2	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機は次の通り。①必修科目である75.0%、③関心のある内容である12.5%、④単位数を確保する12.5% ・学科における必修科目である。 ・学生が探究するテーマを設定することが必要であるが、複数の学生の多様な関心を取捨選択し各自のテーマとして絞りこむ作業が困難であった。 ・学生の学修準備性という点では、各自がオリジナルのテーマ設定をするだけの知識理解、技能表現が不足していた可能性がある。 ・いきなりオリジナルの探求テーマ設定に向かわせるのではなく、複数の学生に共通認識としての知識理解、技能表現を備えさせた上で、類似する題材について複数の側面から解釈させるような展開が望ましいと思われる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	・期末の成績評価は、平均82.9点／100点であった。再試対象者は0名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.6で最も高いスコアであった。 (2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値2.9で最も低いスコアであった。 (1)自分なりの目標を達成した					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・学科のDPの知識理解 (DP1)、技能表現 (DP5)の基礎部分を担う必修科目として開講している。 ・受講動機、学習到達度の自己評価の結果から判断して、内容の妥当性に問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは3.0～3.6であり、概ね意図した授業が実施できたと考える。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかったが、初学者向けの科目であるので特段支障はない。ただし、理論が身近な場面で活用されている事例等を参照するなどを促すことも学習の深耕に資すると思われる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。 ・予復習、自発的学習を促す工夫をする余地があると考ええる。
------------------------------	--

学科	生活創造学科
氏名	加来 卯子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活創造演習	2	通年	必修	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年通年の必修科目である。ゼミナールとして位置づけられた授業であり、主に、1年次の「服飾基礎実習」で学んだ基礎的な技術をもとに、テキスタイル応用作品を製作できるよう授業を進めた。全体的な説明を行った後、机間巡視を行い、学生の質問に対応するとともに、常に学生個々の状況を把握した。教材の選択は、学生の授業を取り組む姿勢・意欲へとつながると考えられる。今年度は「小倉織のデザイン布を用いた作品制作」を題材とし、各自がデザイン面において工夫・展開できるように補助的な提案を行った。授業の最後には、毎時、振り返りを行い、次回の準備として進めておくべきことを確認した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82点であった。受講者のほとんどが理想的レベル(概ね80点以上)に達していた。知識理解については、ほとんどの学生が達しているが、取り掛かりに個人差が生じるため、空き時間を利用し個別に対応した。技能表現に関しては、作品の難易度等が関係し、学生により差異がみられた。過去の製作作品の写真を参考に、意欲を高められた学生は、独自のアイデアを作品に表現する。時間外における取り組みも多少見られたが、根気強い取り組みにより一定の成果を残した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門必修科目」であり、1年次における基礎的な学び(被服関連)のもと応用発展させた科目である。生活を営むうえで必要な知識および技術に関する内容も含まれている。「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と思う学生が多く、授業回数を重ねていく毎に関心の高さが増じていくため、内容的には妥当であったと考える。今後も、個別の対応を重ねるとともに学生の様子を伺いながら、丁寧な指導を心掛けたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」と回答する者が多かった。一方で、授業の課題以外への学習に取り組んだ者は少なかった。これらの意見を参考に新カリキュラムにおける演習への指導に反映させたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門応用科目（演習）にあたる位置づけから、知識および技能については概ね達成できた。課題によっては時間をかけて向き合うことが大切であるため、時間配分も含め、今後、検討していく必要があると思われる。また、個々に学べる体制をつくることの重要性も感じられるため、来年度に向けて改善していきたい。
------------------------------	--

学科	生活創造学科
氏名	領木 信雄

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活創造演習	2	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	事前の説明会で授業内容について丁寧に説明を行ったため、内容に興味のある学生が受講した。 経験のないソフトウェアの使い方からになるので、手順を細かく記した配布資料を用意し、1ステップずつ追っていけるようにした。また、制作例を示し、基本的な考え方や操作方法を習得した後は自分で試行錯誤して制作できるようにした。 少人数であるので、制作にあたっての疑問点などは個別で対応できた。 制作物の発表を行ない、受講生同士で制作物の評価を相互にできるようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は制作した課題から評価した。受講生全員が、ほぼ自力で課題を制作し、独自の拡張もできる、理想的なレベルに達していた。全員が全ての課題を提出できた。 学生による到達度自己評価においては、どの項目においてもほぼ全員が「まあまあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」を選んでおり、目標達成状況は概ね良いと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP・カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は専門科目の必修科目(担当教員を選択)である。カリキュラムツリーにおいて「キャリアおよび社会参画について学ぶ」科目として、内容的に妥当であると考える。 2. DP・行動目標からみでの内容的妥当性 プログラミングにより作品をつくることから、特に「情報に関する基礎的な知識と理解を有している」「読む、書く、調べる、計算する、自分の考えや感性を表現し伝える」といった基礎学力を備えている」について、内容的に妥当であると考える。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の予習を行なった回数の少ない学生が見られるので、予習すべきポイントを分かりやすく伝えるように工夫したい。
また、図書館にも関連図書を購入してもらっているのに、利用される頻度が上がるよう、度々紹介するようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況は概ね良いと言える。

課題の自由度が高いにも関わらず初期の制作物が例題から離れられていないことがあったので、具体的なバリエーションを多く示してサーベイしやすいようにするとともに、アイデアの広げ方についても紹介できるようにしたい。

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活創造演習	2	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「生活創造演習」は必修科目であるが、食に興味を持つ学生が受講するため学修意欲が高いことが窺える。 ②1年生と2年生前期に食の基本を修得し、「生活創造論」の科目と運動し作成方法や計画を立て実践するためにすべての知識が応用できるように進めた。 ③授業前に図書館で文献や図書などで調べ、計画を作成してから授業に参加させた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①定期試験ではなく毎回のレポートを課題としている。成績としては全員標準的レベルに達したが理想レベルに(概ね90点以上として)に達しているのは9名であった。 ②学生の授業評価アンケートから、「自分なりの目標を達成した」と回答に関しては平均値4.8、中央値5.0であった。すべての学生が「生活創造論」で原理を理解し、この科目に結びつける為に創意工夫を行った為に高い評価が得られたと考えられる。知識理解に関しては平均値4.3～4.6、中央値4.5～5.0であった。知識を確認、修正したり新たに得ることができ、それぞれの学生の自信に繋がったと考えられる。また、意欲関心についても学びを深めたいと意欲を持つことができたと思える。そして、技能表現 (DP5)に関しては、平均値4.6～4.7、中央値5.0であった。必要な技術が身につき、それぞれのコミュニケーション力や表現力をも身につける事ですぐに実践できることを体得したと考えられ、これらのことは、学生の自信に繋がったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「生活創造論」と運動しており、「生活創造論」の授業は原理を理解し作成方法や計画を立てる為の基礎として修得した上で、本科目は実践としてすべての事柄が応用できる重要な位置づけの「必修科目」である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の修得ができたと思える。また、これを用いて創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①「授業の質の評価」では、いずれも平均点で、4.1～4.5と大きな課題はないと思われる。特に(4)の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの学生が参加する機会が作られていた」項目では平均値4.5、中央値5.0と評価が高く、地域貢献として発表する機会は学生の自信に繋がるだけでなく、郷土愛を育む良い効果であると思われる。受講意識も高くなり学生と教員間の信頼関係が増すと思われる。また、(5)の「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」項目では平均値4.5、中央値4.5と評価が高く、作成方法や計画を変更せざるを得ない場合など学生とのコミュニケーションを図ってきた。それに加えてそれぞれの学生の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生には適切な説明してきた。 ②今後も原理などの基本を修得した上で実践ができる授業を進めていきたい。 ③学術データベースやインターネットのHP検索などは、ほとんどの学生が利用していた。また、図書館の利用についても、ほとんどの学生が利用していた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本科目は「生活創造論」と連動しており、「生活創造論」の授業で原理を理解し作成方法や計画を立てる為の基礎として修得した上で、本科目は実践としてすべての事柄が応用できる重要な位置づけの「必修科目」である。授業の達成度自己評価においても、概ね平均値4.3～4.8、中央値も4.5～5.0であり、期待した修得ができたと考える。 ②授業を通じてDPIにある、衣食住に関する基礎的な生活技術を修得し、今後のみずからの生活に創意を加えて活用することについても概ね達成できた。(地域貢献としての学外発表など) ③今後の改善点として、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。
------------------------------	---

学科	生活創造学科
氏名	窪田 靖生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活創造演習	2	通年	必修	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	販売士2級検定合格を目指す授業である。検定内容が小売業の課長・係長や店長クラスのミドルマネジメントを対象としているため、短大生には少し難解な問題が多いと予想されるので、「小売業とはどういうものか」ということを、どうやって理解を深めてもらうかを重点項目とした。小売業を理解するためには、実際の店舗で買い物し、店舗そのものを観察することが一番手っ取り早いので、できるだけ母親や家族が買い物するときに一緒に付いていって、店舗の実態を観察するように勧めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	2016年2月17日に実施された検定試験において、4人受験し3人合格するという驚異的とも思える実績を上げることができた。西南短大始まって以来の快挙であり、誇っていい成績である。西田奈央さん 75点、野村佳歩アさん 71. 5点、落合紫保子さん 70. 5点と4科目平均70点以上という合格ラインをやっと超えたレベルであるが、よくここまで努力したものと褒めてあげたい結果である。参考までに北九州商工会議所における西南短大以外の受験者の合格率は61. 1%であった。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・DP、行動目標からみでの内容的妥当性 中3名が見事合格できたことから判断して、内容的妥当性には問題ないと思われる。 高難度の2級検定に4名
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1コマ別の授業内容について、どれくらい理解できているかの評価として、次回の授業時に豆テストで確認することになっている。豆テストの結果は正直で、高得点者は受験してもいい結果がでている。この豆テストの実施、内容解説が好結果をもたらしたものと自負している。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

4人受験で3人合格という輝かしい成績ではあるが、後1人が不合格だったことに関しては不満足である。次年度は全員合格を目指したものである。

学科	生活創造学科
氏名	力武 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際文化論	2	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、文化の様々なジャンルや民族による文化の違いと同時に類似点を地域横断的に見たり、グローバル化を視野に入れた地域・国家特有の文化間のダイナミクスを歴史的展開のなかでとらえることを目的としている。そのため、まずは身近な文化に関心を持つと同時に世界の文化状況と相対化しながら文化の諸相をとらえていくことを、授業の実施に当たっては重視している。授業では文化のダイナミクスをとらえるための視点を持つことができるように教授し、学生は授業を受ける準備段階で、文化の具体的な事例を探して授業に臨む方法を取ったので、理論と実践の基本スキルズは身についたとみている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各受講生は、様々な文化の中から1つ関心のある文化を選び、それについて約半年間かけて、文献研究を行い、文化の交流、摩擦、受容、混交などの過程を歴史的にたどり、文化のダイナミクスを分析し、レポート作成とプレゼンによる発表を行うという一連のタスクを課している。レポートおよびプレゼンの成果は、平均8割の達成度であった。 試験の結果は、平均8割弱であった。また、試験問題の1題は、国際文化論のアプローチが今後の生活においてどのように活用されうるかという問いに対して、積極的な活用方法が示され、将来的にも生活スキルズとして活用されることが示唆された。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は選択科目であるため、基本的には国際交流や海外の文化に関心のある学生が受講する。しかし、たいていは外国の文化がどんなものか、いわゆる中国文化、フランス文化といった従来の文化論を想定して受講している。しかし、国際文化論のアプローチの新しさに、最初は戸惑うようではあるが、徐々に関心を高め、最終的には文化研究レポートを作成し、発表するまでに到達しているの、基本的にはこの内容と進め方は妥当であると思う。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は選択科目であるため、基本的には国際交流や海外の文化に関心のある学生が受講する。しかし、たいていは外国の文化がどんなものか、いわゆる中国文化、フランス文化といった従来の文化論を想定して受講している。しかし、国際文化論のアプローチの新しさに、最初は戸惑うようではあるが、徐々に関心を高め、最終的には文化研究レポートを作成し、発表するまでに到達しているので、また発信型のコミュニケーションは時流的にもなっているため、基本的にはこの進め方でよいと思う。 授業では、できるだけ学生が発言する機会を多く設け、発信技能のレーニングもしているが、この方法も継続して取り入れていきたい。 今後は、授業のなかでワークショップ形式を一部取り入れ、文化状況を地域横断的にとらえることを検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「文化を国際文化論の授業のような見方で捉えたことがなかった」というのが、毎年の受講生の第一の感想である。国際文化論は新しい学問分野なので、従来の文化論とは異なるが、常に流動的な国内・国際社会のダイナミクスのなかで生起、継承、衰退、混交を繰り返している文化状況を捉えるアプローチを学生に教授することはとても意義があると思う。毎年受講生の構成メンバーが異なるため、学生の反応を見ながら、学生の関心を高めつつ、卒業しても生活の中で文化を見る眼とそれを生活に生かすスキルズを身に着けることを狙いとした本科目は、上述のデータからもある一定の成果を達成していると評価できる。
------------------------------	--

学科	生活創造学科
氏名	富田 純史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	1	後期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 生活と環境の講義は選択のため学生の受講動機や学習背景が様々である。このため本講義では、生活環境（水環境、地球レベルと地域レベルでの大気環境、室内環境、食環境、衛生動植物環境、医療環境など）における、予防の重要性について、グローバルな視点を加えて、学生ひとり一人が興味をもてるようになること 2. 抽象的な講義にならないように、身近でわかりやすい配布資料に加えパワーポイント・ビデオなどの視聴覚教材を準備した。 3. 講義時間の配分に留意し、(1)前段、(2)配布資料と黒板による説明、(3)視聴覚教材による補完説明、(4)今回・前回までの講義関連事項に関する疑問やコメントへの回答と説明を行った。 4. 講義関連事項に関する疑問・コメントについては、講義直後に整理分類し、口頭だけでなくパワーポイントなども作成して次回での回答・説明に備えた。 5. 昨年度からの改善点としては、講義中に学生への質疑を加えるようにした。 6. 授業評価においては、単なる知識だけでなく本講義を通じて“予防”の大切さについての理解をみた。このため、定期試験だけでなく全講義の後に実施していたコメントカードの記載内容にも重点をおいて評価した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 定期試験の結果は大部分の学生が80点以上の満足すべき結果を示した。 2. 早朝からの講義にも拘らず、欠席・遅刻がほとんどなく本講義への興味の向上を示した。このため、登録学生で失格になったものはいなかった。 3. コメントカード記載内容は、講義の進行とともに量的・質的に増加し、講義内容関連事項への質問・コメントも増加した。 4. 学生による授業評価においては、一部に予習・復習が不足している学生の存在が示された。次年度において本講義は担当しないが、将来機会があれば、関連資料の収集やまとめなどのテーマを与えることを検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本講義は教養として選択、学科横断的位置づけにあるため、学生の本来の興味や教育背景が異なる。このため、他の関連講義と補完するところの“環境に関する知識”だけでなく、“次予防”の大切さを様々な角度から考え理解させることが望ましい。全学生の出席率だけでなく各講義後のコメントカードの記載内容、定期試験結果には満足すべきものがあり内容的に妥当であったと評価する。 2. DP、行動目標からみでの内容的妥当性 講義内容に興味をもつことにより専門的な知識も増加していることが各講義後のコメントカードの記載内容、定期試験結果に示されており内容的に妥当であったと評価する。 3. 以上により、本講義の内容的妥当性には問題ないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 授業の進め方については、各年度での結果をもとに改善してきたことにより一定の自己評価をしている。 2. 入学年度により学生の志望動機、教育背景と在学後における将来への希望が多様化している。このため、将来本講義担当の機会があれば、教育内容のレベル設定にはさらに工夫を行いたい。即ち、全体として視覚的にもわかりやすい構成の中により詳細な専門的なものを加えて行きたい。 3. 予習・復習については同様に機会があれば他の必須科目の単位取得、資格試験準備などを考慮し身近な材料を取り上げて実施させるようにしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講義は、学科横断的教養選択科目であるが、他の専門科目への学習意欲の向上と知識・理解の補完となるように設定している。講義中のコメントカード記載内容と定期試験結果から、これらの目標は概ね達成できたと総合的に評価している。しかしながら、入学年度により対象となる学生の志望動機、教育背景と在学後における将来への希望が多様化しているため、講義開始直後に各学生の講義への反応を注意深く観察することでその後の講義内容へ反映させることが重要だと考える。
------------------------------	--

学科	生活創造学科
氏名	長岡 真実子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
住まいと健康	2	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機が「単位数確保」である学生がほとんどである。これは、学生が日常生活において、住生活に意識が向いていないことに起因すると考えられる。できるだけ生活に密着した具体的な事例をあげて、学ぶ意識の向上に努めた。講義内容を書き込める、授業用プリントを作成し、資料等を添付、学生が記入することで、各々オリジナルのテキストとして活用できるようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は、82点であった。大半が80点以上であり、理想的レベルに達しているといえる。ただし、個々の成績にはばらつきがあり、標準以下の学生も数名いた。60点台の学生2名に関しては、基礎知識が得られているとは言いがたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	選択科目であるが、学生が将来家庭において住生活を営む上で必要な、幅広い知識を習得できる内容となっており、内容的には妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

到達度自己評価、授業の質評価はいずれも3前後であった。授業の質評価の中で「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均点が2.5と低かったが、時間的制約等によりその機会は十分に得られなかった。次年度は少しでもそういう機会を作れるよう検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

単位数確保のために受講した学生がほとんどであったが、ある程度の知識と理解を持たせることは達成できた。今後の課題としては、より一層高い関心を持って学習し、知識の習得に努めていけるように工夫していきたい。さらに、家庭、社会における住生活の様々な問題に積極的に関心を持てるように

学科	生活創造学科
氏名	桑野 嘉津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子育て論	2	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目の受講動機は全員が「関心のある内容である」と答え、初回の授業に実施した学習準備状況の確認のためのアンケートにも「将来親になって子どもを育てたいと思っている」と全員が回答して子育てについての学びに高い意欲を示した一方、これまで赤ちゃんの世話をした経験については「ほとんどない」という状況だった。そこで子育てについて具体的なイメージを持てるように映像を用いたり、可能な限り具体的に学べるように授業計画を立てた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終試験の結果は全員が合格点に達した。本試験は記述形式であったが、学び得た知識をもとに自分なりの考えをしっかりとまとめることが出来ていた。テーマごとに課したレポートにおいてもしっかりと書かれ、知識理解と思考判断について概ね達成さと判断されるレベルであった。ただ子育てにおける「思考判断」は実際に子どもと関わり様々な課題を乗り越えていくことで深まるので現時点では「やや達成された」という評価が妥当であると考えられる。 到達度自己評価においても該当する項目(10以外の項目)では高い評価の回答をしている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は選択科目で、授業準備の欄で指摘したように全員が「関心のある内容である」と答え、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 それぞれの課題について高い割合で達成したことことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	これまで赤ちゃんの世話をしたり小さな子どもと関わった経験の少ない学生が子育てについて具体的なイメージが持てるように絵本の読み語りや手作りおもちゃの作成などを取り入れたことで学生の意欲関心を高めることができたと考える。環境を整えば、さらに具体的に学べるように赤ちゃんの模擬人形を使って実習の機会を持ちたいと考える。 「図書館の利用」については学生の回答では「無回答」が1名いたが実際は全員が毎回絵本を借りて授業に臨み意欲的に活用していた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	少人数の授業であったので学生への質問や学生からの質問、学生同士の話し合いなど全員参加型の授業ができたと思う。 目標達成状況や評価結果をみると概ね授業の目標を達成できたと考える。
------------------------------	--

5142200

リフレクションカード 2015年度後期

学科	生活創造学科				
氏名	今村 浩司				

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と福祉	1	後期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	全ての人がその生活している地域の中で、当たり前前の生活をしていくことはどういうことか、ということとを指定テキストやDVDを視聴させ理解を深めさせた。また、福祉に対する理念の構築とそれを実現する制度組織人材支援の方法も含めて社会福祉の全体像を理解し、より積極的な関心を持って福祉活動への参加する動機づけとしたいということを十分に考慮して講義を展開させた。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、他には予習復習の件、欠席遅刻の件、定期試験の件、レポート提出の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、毎講義ごとにレジюмеを作成して配布し、理解度を高めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、定期試験、提出レポート、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に多くの学生が80点以上を占めて、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、世の中の福祉がわかってよかったと思ったや、自分が生きていく上で、福祉制度とかを知らないと大変なことになる、等の内容の記載もあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講学生が初めて福祉論を学ぶ学生であり、導入の部分で、自分のライフサイクルで必ず必要になる社会福祉システムと紹介し、講義に対してのモチベーションを高める努力をした。その結果、自分自身だったらどうしたらよいのか、という高い関心を感じられた。学生も最終的な成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見での内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解は一定程度できていていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題は無いと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、 学生が参加する機会が作られていた」の平均点が3.8と、比較的に低かった。 可能な限り今以上に展開できるように課題としたい。また、残念ながら学術データ ベースの活用が殆どなされてなく、インフォメーションを行うことも検討と したい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、 忙しかったという回答があった。時間の作り方に関しても、検討してい きたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	前半部分は、社会福祉の基本的なことを指定テキストを使用し、講義を進めていくこととした。また、後半部分は、DVDを視聴して、現代社会の問題点であったり、課題であったり色々なテーマを設定して検討を加えた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。(カリキュラム改訂のため、次年度以降開講無し。)
------------------------------	---

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用の調理	1	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生後期の調理実習の授業は選択科目であり、食のコースを専攻している学生やフードコーディネーター資格取得を目指す学生には重要科目である。受講動機から見ると「関心がある内容である」61%、「単位数を確保する」33%、「必修科目」22%、「資格取得に必要である」11%、「友人が受講しているから」5%とに分かれ、授業に関心がある学生が61%と多く、調理についての関心の高さが窺える。 ②後期の「応用の調理」の実習授業は前期に「調理の基本」を修得し、安全かつ衛生的に調理操作ができるようになったが、日常生活の中で調理に携わることが少なく調理経験が未熟なため、基本を再確認させることに努力している。 ③複雑な調理操作を体得させ、献立作成から調理、テーブルセッティング、食卓作法まで修得し、調理全体が上達することにより成功体験から調理に関する全てのことに興味を持たせ、実習授業だけでなく日常的に調理に関心を持つように進めている。 ④週に1回の実習授業のため、実習前には、図書館で調理用語などについて予習をし、実習後には、復習の意識を高める為に授業で学習した料理を自宅で調理し、調理が日常的な行為であることを体得させることに努力をしている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	①調理実習授業である為、定期試験ではなく毎回のレポート等を課題としている。学生全員が15回のレポートを提出し、最終的な成績としては、平均値は86点で90%が標準的レベルに達したが、その中で理想的レベル(概ね90点以上として)に達しているものは5名で全体の25パーセントであった。 ②学生による授業評価アンケートから、知識理解(DP1)に関しては、平均値4.3、中央値4.0で調理の知識を確認、修正したり新たに得ることができ、それぞれの学生の自信に繋がったと考えられる。また、意欲関心に関しても、「応用の調理」の学びを深めたいと意欲がでてきたことが窺える。そして、技能表現(DP5)に関しては、平均値4.3、中央値4.0で調理技術やおもてなしができる表現力が身につく、調理に関するトータルコーディネートが出来ることは学生の自信に繋がったと考えられる。 ③学習量の評価					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	の課題以外に取り組んだ学習として「夕食を作った」と2名の学生が記述しており、日常的に「調理の実践」の大切さを修得したと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の後期に行う調理実習の「応用科目」とし調理に関するトータルコーディネートを修得する重要な位置づけとしての選択科目である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の修得ができたと考える。また、これを用いて創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価では、いずれも平均点で、4.1～4.3と大きな課題はないと思われる。 ②調理は実習授業の為、必ず師範の調理見本操作を視覚を通して理解させることに努力してきた。特に実習中は机間巡視を行い各班の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生に適切な調理操作を説明し、コミュニケーションを図ってきた。今後も安全かつ衛生面に留意し、授業を進めていきたい。 ③学術データベースやインターネットのHP検索などは、利用者が少なかった。図書館の利用については、毎回の課題レポートに図書館の図書で調べることを課題にしている為、利用者が過半に達しているが、今後はさらに図書活用者を拡大したい。 ④学習量の評価における、個別コメントにおいても、家庭で実際に料理を作ったとの記述が多数見受けられ、「衣食住における基礎的な生活技術」を得てそれを自分の創意を加えて実践できている学生もあり、授業の進め方も概ね妥当と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本授業は、選択科目であり、後期に行う調理実習の「応用」とし調理に関するトータルコーディネートを修得する重要な位置づけである。 授業の達成度自己評価においても、概ね平均値4.1～4.3、中央値も4.0であり、期待した修得ができたと考える。 ②実習などを通じてDPIにある、衣食住に関する基礎的な生活技術を修得し、今後のみずからの生活に創意を加えて活用することについても概ね達成できた。(授業以外の家庭での料理の実践など) ③今後の改善点として、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
調理学	1	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生後期の「調理学」は選択科目であり、食のコースを専攻している学生やフードコーディネーター資格取得を目指す学生には重要であるが、全員が資格取得を目指すわけではなく、今回の受講動機を見ると「資格取得に必要」である学生は4%と少なく、「関心のある内容」58%、「単位を確保する」54%、「友人が履修している」4%と分かれ、フードコーディネーター受験者のための授業展開を行うと、受験しない学生の関心を引きつけることが出来なくなること留意して、全ての学生に理解しやすく、関心が持てるように行った。 ②調理を行う上で必要な調理の基礎理論を修得し、実際に社会に貢献できるように食事作法を身につけ、食生活の場で実践してきた。 ③全員に関心を持たせる為に食に関する統計調査を行い、データを分析し図表に表す調査・表現能力を学修させ発表を計画した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	①最終的な成績の平均値は84点であり、再試対象は0名であった。学生の88%が標準レベルに達したが理想レベル(概ね90点以上として試験を作成)に達したのは8名の32%であった。 ②学生による授業アンケートから知識理解 (DP1)に関しては、平均値3.9～4.0、中央値4.0と「調理学」の基礎知識が確認、修正したり新たに得ることができたと考えられる。また、技能表現 (DP5)に関しては、平均値3.9、中央値4.0で「調理学」の食に関する統計調査データを分析し図表に表す調査・表現能力が身につく、学生の自信に繋がったと考えられる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、1年生の後期に行う「調理学」の調理を行う上で必要な基礎理論を修得する為の重要な位置づけとして科目である。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の修得ができたと思う。また、食に関する統計調査を行い、データを分析し図表に表す調査・表現能力を学修させ創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価では、いずれも平均点で、4.0～3.8と大きな課題はないと思われる。しかし、授業準備の欄で指摘したようにフードコーディネーター試験を受験しない学生も受講するなど受講動機が違うため、それぞれの学生の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生に適切な説明をしてきた。今後も学生とのコミュニケーションを図り、授業を進めていきたい。 ②学術データベースやインターネットのHP検索などは、利用者が少なかった。図書館の図書で課題を調べる為、図書館利用者が30%いるが、今後はさらに図書活用者を拡大したい。 ③学習量の評価における、個別コメントにおいても、「家で勉強した」の記述が見受けられ、「調理学における基礎的な理論や生活技術」を得てそれを自分の創意を加えて実践できている学生もあり、授業の進め方も概ね妥当と考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①「調理学」は、選択科目であるがフードコーディネーター試験を受験する学生にとっては重要科目である。また、食におけるフードコーディネーター試験の受験者が合格後、社会に貢献できるように調理の基礎理論や実際に食生活の場で実践できるような基礎となる位置づけである。授業の達成度自己評価においても、概ね平均値3.9、中央値とも4.0であり、期待した修得ができたと考える。 ②DPにある、衣食住に関する基礎的な生活技術を修得し、今後のみずからの生活に創意を加えて活用することについても概ね達成できた。（授業以外の家庭での料理の実践など） ③今後の改善点として、資格取得しない学生にも理解しやすい内容で、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。
------------------------------	---

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品加工実習	2	前期(後期)	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生後期の「食品加工実習」は選択科目であり、食のコースを専攻している学生やフードコーディネーター資格取得を目指す学生には重要であるが、それ以外の学生の受講動機はそれぞれ違っている。受講動機から見ると「関心がある内容である」86%、「単位数を確保する」29%、「必修科目」・「GPAを上げる」ともに7%に分かれ、授業に関心がある学生が86%と最も多く、食品加工実習についての関心の高さが窺えるとともに日本古来の伝統食品の味噌やパンなど日常では購入することが大半な項目を自ら作ることに学修意欲が高くなったと思われる。 ②「食品加工実習」授業は1年生の「調理の基本」や「応用の調理」を修得し、安全かつ衛生的に調理操作ができるようになった。食品加工実習の特徴として発酵の為に長期間保存をする工程など食品衛生管理に特に重点をおいた。日常生活の中で長期保存の為に調理に携わる経験が未熟なため、基本を再確認させることに努力した。③発酵、保存、ろ過、攪拌、煮沸殺菌、冷却などの複雑な加工操作を体得させ、食品加工の原理を理解し食品が安全に加工されることで成功体験ができ自身につながる。加工に関する全てのことに興味を持たせ、実習授業だけでなく日常的に市販品を購入するのではなく自ら実践して食品加工に関心を持つように進めている。④週に1回の実習授業のため、実習前には、図書館で調理用語などについて予習をし、実習後には、復習の意識を高める為に授業で学習した加工食品を自宅で再現できる食品は加工し、食品加工が日常的な行為であることを体得させることに努力をしている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①食品加工実習授業である為、定期試験ではなく毎回のレポート等を課題としている。学生全員が15回のレポートを提出し、最終的な成績としては、平均値は86点で93%が標準的レベル達したが、その中で理想的レベル(概ね90点以上として)に達しているものは7名で全体の46パーセントであった。 ②学生による授業評価アンケートから、「自分なりの目標を達成した」と回答に関しては平均値4.2、中央値4.0であった。多くの学生が原理を理解し創意工夫を凝らし修得したものと考えられる。知識理解に関しては、平均値4.4、中央値5.0で食品加工の知識を確認、修正したり新たに得ることができ、それぞれの学生の自信に繋がったと考えられる。また、意欲関心に関しても、「食品加工実習」の学びを深めたいと意欲を持つことができたことが窺える。そして、技能表現(DP5)に関しては、平均値4.2、中央値4.0で食品加工技術やおもてなしができる表現力が身につく、食品の加工技術が容易に実践できることは学生の自信に繋がったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の2年後期に行う「食品加工実習」として様々な加工食品の加工に関する原理や加工方法を理解する為の重要な位置づけとしての選択科目である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の修得ができたと思う。また、これを用いて創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価では、いずれも平均点で、4.1～4.3と大きな課題はないと思われる。 ②実習授業の為、必ず師範の見本操作を視覚を通して理解させることに努力してきた。特に実習中は机間巡視を行い各班の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生に適切な操作を説明し、コミュニケーションを図ってきた。今後も安全かつ衛生面に留意し、授業を進めていきたい。 ③学術データベースやインターネットのHP検索などは、利用者が少なかった。図書館の利用については、毎回の課題レポートに図書館の図書で調べることを課題にしている為、利用者が過半数に達しているが、今後はさらに図書活ユーザーを拡大したい。 ④学習量の評価における「個別コメント」においても、課題以外に取り組んだ学習としては①レポートを書くことで復習できた。②料理をした。③資料探しをした等記述があった。家庭で実際に料理を作ったとの記述が見受けられ、「衣食住における基礎的な生活技術」を得てそれを自分の創意を加えて実践できている学生もおり、授業の進め方も概ね妥当と考える。 ⑤食品加工実習の授業は「とても楽しく、美味しく身になりました」と教員へのメッセージがあり、今後とも学生の身になる授業を進めていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本授業は、選択科目であり、2年生後期に行う「食品加工実習」の様々な加工食品の加工に関する原理や加工方法を理解し修得する為の重要な位置づけである。 授業の達成度自己評価においても、概ね平均値4.1～4.4、中央値も4.0～5.0であり、期待した修得ができたと考える。 ②実習などを通じてDPにある、衣食住に関する基礎的な生活技術を修得し、今後のみずからの生活に創意を加えて活用することについても概ね達成できた。（授業以外の家庭での食品加工料理の実践など） ③今後の改善点として、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。

5143000

リフレクションカード 2015年度後期

学科	生活創造学科
氏名	富田 純史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ライフステージと健康	2	後期	選択	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
＜授業評価の指標＞
「学修準備性」、自由記述の意見など

1. ライフステージと健康の講義は選択のため学生の受講動機や学習背景が様々である。このため本講義では、母子保健、学校保健、精神保健、産業保健、老人保健、（一部食品衛生関連を含む）までの問題点と疾病予防について、グローバルな視点を加えて、学生ひとり一人が興味をもてるようになることを大切にしている。
2. 抽象的な講義にならないように、身近でわかりやすい配布資料に加えパワーポイント・ビデオなどの視聴覚教材を準備した。
3. 講義時間の配分に留意し、(1)前段、(2)配布資料と黒板による説明、(3)視聴覚教材による補完説明、(4)今回・前回までの講義関連事項に関する疑問やコメントへの回答と説明を行った。
4. 講義関連事項に関する疑問・コメントについては、講義直後に整理分類し、口頭だけでなくパワーポイントなども作成して次回での回答・説明に備えた。
5. 昨年度からの改善点としては、講義中に学生への質疑を加えるようにした。
6. 授業評価においては、単なる知識だけでなく本講義を通じて“早期発見早期治療”だけでなく“一次予防”の大切さについての理解をみた。このため、定期試験だけでなく全講義の後に実施していたコメントカードの記載内容にも重点をおいて評価した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された		やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。

＜授業評価の指標＞
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

1. 定期試験の結果は大部分の学生が80点以上の満足すべき結果を示した。
2. 早朝からの講義にも拘らず、欠席・遅刻がほとんどなく本講義への興味の向上を示した。このため、登録学生で失格になったものはいなかった。
3. コメントカード記載内容は、講義の進行とともに量的・質的に増加し、講義内容関連事項への質問・コメントも増加した。
4. 学生による授業評価においては、一部に予習・復習が不足している学生の存在が示された。卒業年次で就活や必須科目取得の多忙さも考慮しながら、次年度では、関連資料の収集やまとめなどのテーマを与えることを検討したい。

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

＜授業評価の指標＞
「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

1. CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本講義は卒業年次における教養として選択、学科横断的位置づけにあるため、学生の本来の興味や教育背景が異なる。このため、“早期発見・早期治療”だけでなく、“一次予防”の大切さを様々な角度から考え理解させることが望ましい。全学生の出席率だけでなく各講義後のコメントカードの記載内容、定期試験結果には満足すべきものがあり内容的に妥当であったと評価する。
2. DP、行動目標からみでの内容的妥当性
講義内容に興味をもつことにより専門的な知識も増加していることが各講義後のコメントカードの記載内容、定期試験結果に示されており内容的に妥当であったと評価する。
以上により、本講義の内容的妥当性には問題ないと考える。
3.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 授業の進め方については、各年度での結果をもとに改善してきたことにより一定の自己評価をしている。 2. 入学年度により学生の志望動機、教育背景と在学後における将来への希望が多様化している。このため、教育内容のレベル設定にはさらに工夫を行いたい。即ち、全体として視覚的にもわかりやすい構成の中により詳細な専門的なものを加えて行きたい。 3. 予習・復習については卒業年次であることと他の必須科目の単位取得、資格試験準備などを考慮し身近な材料を取り上げて実施させるようにしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講義は、学科横断的教養選択科目であるが、他の専門科目への学習意欲の向上と知識・理解の補完となるように設定している。講義中のコメントカード記載内容と定期試験結果から、これらの目標は概ね達成できたと総合的に評価している。しかしながら、入学年度により対象となる学生の志望動機、教育背景と在学後における将来への希望が多様化しているため、講義開始直後に各学生の講義への反応を注意深く観察することでその後の講義内容へ反映させることが重要だと考える。
------------------------------	--

学科	生活創造学科
氏名	篠木 賢一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
スポーツと健康	2	通年	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は食と健康コース必修科目である。対象の学生は2年生(通年)であり、自己の健康管理について理解することが大切であり、望ましい生活習慣獲得のために、運動・スポーツを生活習慣に取り入れ生涯スポーツとしてスポーツを楽しめるように、スポーツスキルが獲得できるように授業を展開した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は83.2点(S-4、A-5、B-3、C-1)である。ほとんどの学生がSまたはAを取得していることから、目標は概ね達成されたと考えている。SまたはAを取得した学生は、自らの体力を把握・分析し、健康増進のためや生涯スポーツとして運動を続けるために、競技スポーツのスキル獲得に努力する姿が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門科目」における「食と健康コース」に位置づけられており、食と健康コースの必修科目である。成績を見てもほとんどの学生において現段階での課題は達成されており、内容的には妥当であったと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

体育館という環境のため、学生が説明を聞き取りやすいように注目を集めたり、聞き取りやすい環境づくりに努めた。少人数の授業であったため、さまざまな競技を行えるように、環境整備やルール変更などを行い、学生が楽しめるような展開を心掛けた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業への取り組みや評価結果を見ると、授業の目的は概ね達成できたと考えられる。少人数のためできる競技が制限されたが、卒業後も生涯スポーツとして運動を楽しみ、よりよい生活習慣を送ることができるように授業展開を検討していく。

学科	生活創造学科
氏名	篠木 賢一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ダイエット論演習	2	通年	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は選択科目である。肥満は生活習慣病の要因であり、健康に良くないことは知られているが、ダイエットの意味や正しい方法等を理解することが大切である。自己の身体状況を正確に把握し、健康的な身体づくりを目標に、ダイエット・運動計画の立案を行った。また、実際に運動を行いながら、運動量の測定や食事でのカロリー摂取状況を把握し、ウエイトコントロールの方法が理解しやすいように工夫した。週1回の授業だけでなく、自宅でも行えるストレッチやトレーニング方法等の指導を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は87.7点(S-8、B-1、C-1)である。ほとんどの学生がSまたはAを取得していることから、目標は達成されたと考えている。Sを取得した学生は、運動による自己の身体変化を感じており、毎回の授業ごとに振り返りを行い計画の変更ができるようになった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門科目」における「食と健康コース」に位置づけられており、学生が興味を持っているダイエット論演習で受講の意欲は高い。成績評価を見てもほとんどの学生において現段階での課題は達成されており、内容的には妥当であったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教師からの一方的な授業にならないように、グループワークや学生が発言できるような内容で授業を行った。また、トレーニングでは個別で項目・回数が違うため、個別対応で指導を行った。それにより、学生が考えて積極的に行動する姿が見られた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業への取り組みや評価結果を見ると、授業の目的は達成されたと考えられる。授業以外でも運動が行えるように体育館の開放や、卒業後も健康管理ができるような授業展開を検討していく。

学科	生活創造学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性と健康	2	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	女性として生涯に渡って健康に過ごすために必要なことを、身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康とさまざまな観点から講義しました。内科医、助産師、心理カウンセラーなどその分野の専門家が自分の経験を踏まえて、生の声を伝えることを大切にしました。授業中に折に触れて、「命の大切さ」にも言及したつもりです。授業評価アンケートの受講動機をみると、半数の受講生が「関心のある内容である」を挙げています。興味をもって授業に臨んでくれたことを嬉しく思います。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績評価はレポートにて行いました。将来の自身の理想像を描き、そのために何をするべきかといったテーマでした。平均点は82点であり、講義の内容を理解し、自分に当てはめて応用できていると考え、全員が標準レベルには到達したと判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、知識理解、思考・判断に関する項目で「わりにそうだと思う」の達成感を示す回答が多く、皆さんが真面目に勉強した表れたと思います。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	生活創造学科の学生さんにとって専門分野に必ずしも直結する内容ではなかったにも拘らず、興味をもって取り組んでくれました。ただし、授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている受講生はわずかでした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとはいませんでした。CP、DPでの位置づけを明示し、受講生が興味を持てるような課題を出したり、予習復習のポイントを示すなどを工夫するべきだったと反省しています。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業評価アンケートをみると、授業の説明の分かりやすさ、勉強すべき範囲や成績評価基準の提示に関しては高い評価を得ていますが、学生の授業への参加機会や質疑応答の機会については評価が低くなっています。もっと学生参加型の授業形態を取り入れるべきだったと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

将来、女性として社会や家庭で活躍するためには心身ともに健康であることが大切であり、そのために何をすべきかを理解して貰えたと思います。生活創造学科の専門分野と直結する内容ではないため、もっと受講生が興味を持って取り組めるように、学生参加型の授業形態を取り入れるなど出来たら良いと思います。

学科	生活創造学科
氏名	窪田 靖生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
流通経済論	1	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年生では資格取得はないが、2年生で販売士3級の資格取得が予定されている。当科目が直接、資格取得に該当する訳ではないが、販売士受験の基礎になる内容なので、来年受験したい学生は「②資格取得に必要である」が受講動機になると思われる。次年度の資格取得を考えると受験生が多いほどいいので、大量の受講生を期待していたが、残念ながら1名のみだった。流通に関しては、普段の生活ではあまり重要視されていない傾向があるが、一旦、震災等が発生すれば、ライフラインがストップすることになり、普段重視していなかったモノの流通がいかに大事であるかということを実感することになる。そういう意味でモノの流通がいかに大切であるかを確認できるような内容にすることを心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	20人の受講生があり、内2名が単位取得に至らなかった。再試験当日欠席したことが原因である。毎回豆テストを実施し、理解度を確認していたので、再試験さえ受験すれば問題なかったと思われるのに、当日欠席は残念な結果であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

一般社会において生活していく上で理解しておく方がいいと考えられる講義内容なので、全員単位取得してほしかったが残念な結果であった。次回からは、社会的インフラともいえる流通機構がいかに大切なものであるかを十分に確認できるような講義内容にしたいものである。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

特になし。

学科	生活創造学科
氏名	窪田 靖生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
マーケティングリサーチ論	1	後期	選択	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	マーケティングリサーチは、企業がマーケティングを実施するための前提となる活動であり、その巧拙は企業の生死をも左右することにもなりかねない、重要な活動であることを強調して講義を開始した。受講動機が「単位数を確保する」ためとのことであり、その目的だけであれば、難解な講義となるので、少しでも興味を持たせたいとの思惑からの考えである。また、講義内容の理解については、次回の講義の最初に前回分の「理解度テスト」を実施した。講義の聞きっぱなしではなく、理解させるためには復習が必要であることを踏まえての実施である。毎回、復習した、しないで歴然とした差がついている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	一人がインフルエンザで追試験になったが、試験結果は順調で最終的に合格となった。残りの2名は成績優秀で、97.4点、96.5点と高得点だった。毎回の理解度テストでも高得点を取っており、妥当な成績だったので、講義内容は十分に把握できたものと判断している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・DP、行動目標からみでの内容的妥当性 績評価点平均が96. 95点と抜群の成績であることから判断して、内容的妥当性には問題ないと思われる。 期末試験を受験した2名の成
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義内容を学生に分かりやすくシンプルな説明にしたので、理解が深まったものと理解している。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

特になし。

学科	生活創造学科
氏名	窪田 靖生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
サービス産業論	2	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本を含む先進諸国では、「サービス経済化」と呼ばれるようにサービス産業が経済活動に占める割合が拡大しつつある。これはベティ＝クラークの法則として知られている。すなわち第1次産業（農林水産業）から第2次産業（鉱工業）、第3次産業（サービス産業）へと経済活動のウエートが移り変わっていることを表している。ところが日本のサービス産業は生産性が低いことが課題となっており、サービス産業の生産性向上にはイノベーションが必要であることを一貫して講義した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	受講動機「関心のある内容である」が5/8名、「資格取得に必要である」が1/8名にみられるように、8名中6名がこの講義に関心が高いことを示している。そういう分野であることもあり、受講に熱心な学生が多かった。その結果が、期末試験を含む評価点の平均が84.9点という高得点に表れている。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価にもみられるように、全体的に高得点であり、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

サービス産業の位置づけと現状の課題が把握できたものと判断している。サービス産業の生産性向上にはイノベーションが必要であることも理解させることができた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

特になし。

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
簿記・会計Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機は次の通り。①必修科目である38.9%、②資格取得に必要である111%、③関心のある内容である11.1%、④単位数を確保する50.0%。 ・情報ビジネスコースにおける必修科目である。 ・「事務職」に就くために有益との印象をもつ学生が、技能検定の取得を想定して履修したものと思われる。 ・初学者の受講を想定して、テキスト、問題集の指定をした。 ・テキストの内容を理解、定着させるためには例題等による問題演習が不可欠となる科目であるため、理論を解説した後、問題の演習を行った。 ・理論の解説には、テキスト、授業用に作成したスライド、プリント等を用い、問題の演習には、テキストの例題、問題集を用いた。それぞれ巻末に解答が掲載されているので、予習・復習等の自宅学習にも利用できるものである。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・期末試験を経ての成績評価は、平均74.8点／100点であった。再試対象者は0名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.3で最も高いスコアであった。 (2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた (3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた (4)自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた (5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた(6)自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた (7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた (9)職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.1で最も低いスコアであった。 (1)自分なりの目標を達成した (8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた (10)職業選択の参考になった					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・情報ビジネスコースの選択科目として、当該コースの知識技能を深めるために開講している。 ・受講動機、学習到達度の自己評価の結果から判断して、開講の意義は充足されており、内容の妥当性に問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは3.2～3.3であり、概ね意図した授業が実施できたと考える。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかったが、初学者向けの科目であるので特段支障はない。ただし、理論が身近な場面で活用されている事例等を参照するなどを促すことも学習の深耕に資すると思われる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。 ・予復習、自発的学習を促す工夫をする余地があると考ええる。
------------------------------	--

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理会計論	2	後期	選択	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機は次の通り。必修科目である：64.8%、資格取得に必要である：25.7%、関心のある内容である：16.2%、単位数を確保する：20.4% ・予め、初学者の受講を想定して、テキスト、問題集の指定をした。 ・テキストの内容を理解、定着させるためには例題等による問題演習が不可欠となる科目であるため、理論を解説した後、例題・問題の演習を行った。 ・理論の解説には、テキスト、授業用に作成したスライド、プリント等を用い、問題の演習には、テキストの例題、問題集を用いた。それぞれ巻末に解答が掲載されているので、予習・復習等の自宅学習にも利用できるものである。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・期末試験を経ての成績評価は、平均85点／100点であった。再試対象者は0名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が最も高いスコア(平均値3.7)であった。 (2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた ・到達度自己評価の項目中、次の点が最も低いスコア(平均値3.5)であった。 (8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた (10)職業選択の参考になった					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・情報ビジネスコースの選択科目として、当該コースの知識技能を深めるために開講している。 ・受講動機、学習到達度の自己評価の結果から判断して、開講の意義は充足されており、内容は妥当なものと判断される。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは3.7～3.8であり、概ね意図した授業が実施できたと考える。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習の評価が低い。予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は行われていなかったが、初学者向けの科目であるので特段支障はない。ただし、理論が身近な場面で活用されている事例等を参照するなどを促すことも学習の深耕に資すると思われる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。 ・予復習、自発的学習を促す工夫をする余地があると考ええる。
------------------------------	---

5145400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	生活創造学科
氏名	領木 信雄

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
コンピュータデザイン演習	1	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
＜授業評価の指標＞
「学修準備性」、自由記述の意見など

選択科目であることもあって、今年度は受講者が少なく、「関心のある内容である」を選択している学生が半数以下、「単位数を確保する」を選択している学生が半数であった。
経験のないソフトウェアの使い方からになるので、手順を細かく記した配布資料を用意し、1ステップずつ追っていけるようにした。また、制作例を示し、基本的な操作を習得した後は自分で試行錯誤して制作できるようにした。
コメントシートを毎回書いてもらい、時間内にフォローできなかった点をフォローできるようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は制作した課題から評価した。全員が全ての課題を提出し、再試験になる受講生はいなかった。 受講生のほとんどがS・Aでほぼ自力で課題を制作できるレベルに達している一方で、どの課題の完成度も高くない学生も見られた。 学生による到達度自己評価においては、どの項目においても全員が「まあまあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」を選んでおり、目標達成状況は概ね良いと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

＜授業評価の指標＞
「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

1. CP・カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は専門科目の選択科目である。カリキュラムツリーにおいて「被服とデザインを学ぶ」科目として、内容的に妥当であるとする。

2. DP・行動目標からみでの内容的妥当性
専用のソフトを用いてデザインを行うため、特に「情報に関する基礎的な知識と理解を有している」「読む、書く、調べる、計算する、自分の考えや感性を表現し伝える」といった基礎学力を備えている」について、内容的に妥当であるとする。

3. まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の予習を行なった回数の少ない学生が見られるので、予習すべきポイントを分かりやすく伝えるように工夫したい。
また、制作物のイメージを描きやすいように、より多くの例を示せるようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況は概ね良いと言える。
時間を調整して、制作物の発表の機会をつくるようにしたい。

5145600

リフレクションカード 2015年度後期

学科	生活創造学科				
氏名	加来 卯子				

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
服飾創造実習Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年後期の選択科目(実習)である。1年次の「服飾基礎実習」、2年次の「服飾創造実習Ⅰ」で学んだ知識および技術をもとに、応用発展させた作品を製作できるよう授業を進めた。全体的な説明を行った後、机間巡視を行い、学生の質問に対応するとともに、常に学生個々の状況を把握した。教材の選択は、学生の授業を取り組む姿勢・意欲へとつながると考えられる。今回、受講者でまとまりのある作品を製作するため、各自が責任をもって担当を果たすよう指示した。授業の最後には、毎時、振り返りを行い、次の準備として進めておくべきことを確認した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81点であった。受講者は、理想的レベル(概ね80点以上)に達していた。知識理解に関しては、個人差が生じることもあるため、空き時間を利用し個別に対応した。技能表現に関しては、入念な練習に基づき実施したため、達成できたといえる。時間外における取組みもやや見られたが、日々の目標を達成することで作品制作への意欲が感じられた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門選択科目」であり、1年次および2年次前期の学びを応用発展させた科目である。ただ、関心はあるものの、実習経験が少なく、技術が伴わない面も見受けられる。授業回数を重ねていく毎に関心の高さが増していくため、内容的には妥当であったと考える。今後も、個別の対応を重ねながら、丁寧な指導を心掛けたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	シラバスの内容を基本に、学生の意見も一部取り入れたうえで授業を進め、新しい発見や気づき(おもしろさ)が見受けられた。授業時の学生たちの意見や反応を参考に、新カリキュラムにおける実習指導に反映させたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は専門応用科目にあたる位置づけであり、知識および技能の向上については概ね達成できた。作品制作は時間をかけて向き合うことが大切であるため、時間配分も含め、今後、検討していく必要があると思われる。配布物等、わかりやすいものにし、個々に学べる体制をつくることの重要性も感じられ、来年度に向けて改善していきたい。
------------------------------	--

学科	生活創造学科
氏名	加来 卯子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ファッションビジネス論	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年後期の科目であり、講義終了後に実施される同演習(学外)へつながるように準備を行った。学外講師に担当していただく部分については事前に細かな打ち合わせを行った。今回の受講動機をみると、「単位数を確保する」(84.6%)、「関心のある内容である」(53.8%)であった。具体的な事例を掲げ、より関心を引きつけるよう工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は80点であった。受講者の多くが標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上)に達したものは10名であった。オリエンテーションにおいて、授業の受け方、2月に実施される同演習と関連する科目である旨を説明した。知識理解、態度、技能表現、いずれの評価についても、外部講師と意見を交換し、概ね達成されていることを確認した。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門選択科目」である。社会生活に適応するために必要な知識を習得し、考え、まとめる力が必要である。毎回の講義により、関心の高さが徐々に増していくことが感じられた。特に、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の幅が広がった」と評価している。様々な視点でファッションビジネスについて考えることが必要であり、本科目の目的を達成するうえで内容的には妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と回答する学生が多かった。一方で、学習量について、授業に参加するあるいは振り返るために、準備あるいは復習を行ったとする学生は少なく、自己学習を促すための課題を与えることの必要性が感じられた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の目的、内容等については、シラバスを示し説明しているものの、シラバスへの認識はあまり高くないことがうかがえた。授業の初回（オリエンテーション）のみならず、繰り返し説明することが必要であると思われる。学生たちの自己評価より、授業の目標は概ね達成したと認識されているが、来年度以降、さらにシラバスが有効に活用されるよう、工夫したい。
------------------------------	--

学科	生活創造学科
氏名	加来 卯子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ファッションビジネス論演習	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年後期「ファッションビジネス論」講義終了後、主に学外で実施される科目である。入店者研修を経て、企業（小倉井筒屋各階）にて演習を実施するため、受け入れ先の実務担当者と事前打ち合わせを行った。今回の受講動機をみると、「単位数を確保する」(83.3%)、「関心のある内容である」(33.3%)であった。学外演習における厳しさを懸念する声もあったため、真摯な態度で臨むよう指導し、より関心を引きつけるよう工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は85点であった。受講者の多くが、理想的レベル(概ね80点以上)に達していた。入店者研修での反省点を受け、受講者へ注意点および改善点を示したうえで、企業での演習に臨むよう指示した。知識理解、態度、技能表現、いずれの評価についても、外部講師と意見を交換し、概ね達成されていることを確認した。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門選択科目」である。社会生活に適応するために必要な知識を習得したうえで、実践へとつなげる力が必要である。特に、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」と評価している。実践的な学びを通して、就職への意識が醸成され、本科目の目的を達成するうえで内容的には妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」と回答する学生が多かった。連日、レポートを作成し、振り返りを行い、各自の課題を明らかにしたうえで、翌日の演習に臨んだ。最終レポートを作成することで、振り返りを行い、働くことへの前向きな態度が感じられた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生たちの自己評価より、授業の目標は概ね達成したと認識されている。短期間ではあるが、社会人としての礼儀、マナー、言葉遣いなど接遇はもとより、働くことの意義を考える良い機会となった。